

第 180 回 福島県北地区障がい福祉連絡協議会定例会報告書

日 時 2023 年 3 月 23 日(木) 10 時 00 分～11 時 55 分

場 所 ZOOM 利用によるオンライン開催

参加者 なのはなの家:佐野 父の夢:國分 おおぞらの夢:岡崎 もちずりワーク:千葉 ボネール:谷野
手をつなぐ親の会:佐藤 大生信夫の里:木戸 ぼけっと:吉田 旅行を考える会:孝浩 大萱荘:渡部

- 配布物 ① 第 180 回定例会次第
② 第 179 回定例会報告
③-1 伊達市自立支援協議会全体会議 協議事項
-2 令和 4 年度第 1 回伊達市自立支援協議会資料

議 題

○福島障連協の会員の現状について
会員数:50

○報告・確認事項

- ① 第 179 回定例会報告書について
訂正を要する箇所等なし。

○協 議

- ① 令和 4 年度 障連協研修会について

講演「避難行動要支援者個別避難支援プランの作成と訓練 そして安全・安心な避難生活」に関する振り返りと感想

岡崎[おおぞらの夢]

是非、市の担当部局にも聞いて欲しい内容だった。より現実的な避難所としての機能提供とするための検討材料としてもらいたい。

以前の研修会の中では、渡利地区の合同避難訓練の事例報告などあったかと思うが、施設として町内会と協働しながらの訓練事例などはあるのか…おおぞらとしても町内会の総会などに出席し、連携をとっているところではあるが“防災”ということに関してはなかなか触れられない。連携に関する事例があれば伺いたい。

佐藤[手をつなぐ親の会]

いちばん身近な町内会といっても、それぞれ抱える事情はあると思う。常々話し合い、要支援者の実態と災害時の必要な支援や、町会として出来得る支援について共有していくことが重要と感じた。

渡部[大萱荘]

陽光会でも、夏祭りなどで地域との交流は行われているが、防災の面では協力体制が形づくられていない。会としての地域貢献の取り組みをきっかけに地域から認知してもらい、災害時の協力関係に結び付けたいと考えている。

そのあたり最も進めているのは けやきの村 さんか。地域との協力のもと運動会や防災訓練を実施している。

木戸[大生信夫の里]

祭り等の時に地域との交流や、関係づくりに関した相互の働きかけなどあったが、コロナをきっかけにそういったものが途絶えてしまった。これまでの中で“防災”に関する協力事例はない。必要とは感じているが…。

國分[父の夢]

当事業所にも福島市から「個別避難プラン」の作成依頼があった。4 月以降作成に取り掛かる予定。計画書の中身には「避難支援等実施者」として 2 名を据えることになっているが、誰しものがその 2 名を決められるのか疑問。講演では地域の関係する方々が集まって、実際の避難について話し合う場面である「災害時ケアプラン調整会議」といったものが紹介されていた。実効性のある避難支援に向けて“どうしていこう”と一緒に話し合う過程が大切と感じた。

- ② 障連協 令和 5 年度総会について

- ・候補日は 5/30(火)
- ・福島市・伊達市担当部局にも参加声掛けする。また今回は「個別避難プラン」の件もあり、福島市危機管理室の招致も視野に入れる。

③ 第17次アンケート 報告書について

- ・個人向けアンケート自由記述の部分でいくつか施設名が記載されている部分は、実名の部分を“事業所”というふうに置き換える。
- ・今後方向の似た記述についてはまとめるなどで、全体のボリュームを絞って行く。
- ・個人アンケートの自由記述の中には、改善結果が見えないことに対するネガティブな記述も見られた。何かがどう進められたのか、行政からの回答を盛り込んでおくことも必要ではないか。

⇒渡部[大萱荘]

16次アンケートとの結果比較等の要件もあり、前会長の舟山氏の協力も得ながら提言書のまとめを進め、報告書と併せて皆さんにお示ししたいと考えている。

アンケートの内容について、同じ質問が続いていることへの意見もありはする。しかし、回答データの蓄積から分析できることもあり、質問内容に関してはこのまま継続したい。改善できるところは、ご指摘いただきながら改めて行きたく、引き続きご意見・ご指摘を願いたい。

④ 次期役員の選出について

- ・3障がい輪番で3役を担っているが、それぞれにおいて現在調整中。

⑤ 伊達市自立支援協議会出席報告[孝浩]

分科会の説明が殆どであったが、「令和4年度における障がい福祉に関する主な取り組み状況について」(資料2ページ)の中で触れられた、“有事の際における福祉避難所の運営体制の検討”の中身に対しては、避難所整備だけでなく、実際の災害の場面で本当に実効性のある個別避難プランづくりを推進してほしいと申し入れた。

もう一点は伊達市障がい者福祉施設環境整備事業補助金を受け、災害時の避難所機能も有する施設整備に乗り出すひろせ福社会理事長も交え意見交換も行った。有事の避難に備えた情報共有に関しては、個人情報保護からの制約なども理解できるが、人命こそが最優先されるべきと申し上げてきた。

GHの新設についても話題となった。GH経営の実情について、ILセンター運営協議会委員として持つに至った情報を伝えさせてもらった。入居者同士の対人関係や、建物の老朽化とともに空き部屋が増え、収支がとれなくなるなど、現実様々な問題はあるようだ。

⇒渡部[大萱荘]

福祉避難所とは言え、被災して困っている方に対し登録していないという理由で受け入れを断るわけにはいかないだろうと思う。そのあたりも職員すべてに意識づけを図っている。

⇒岡崎[おおぞらの夢]

個人情報の保護と人命の件に関しては、まさに孝浩氏のとおり。この問題に関しては、“有事”の下なら行政首長の決断でいいのではないかと思うが…。

⇒佐藤[手をつなぐ親の会]

福島市は登録者の情報を各地域の町会まで落としている。あとは、本当に役立つ体勢整備ができていくかが重要であり、訓練などを通してより実際の避難はどうかをイメージしていくことか。

⇒孝浩[旅行を考える会]

障がいのある当事者自らも、平素からの災害への備えは重要だと思う。発災即避難所でもない。今の気象予測は高精度であり、その情報をもとに発せられる避難情報をもとに、自身はどの段階で避難行動を開始するのかを考えておくべき。

そのうえで、いざ避難の状況下においては、その時々状況と、障がいの状態などを踏まえた合理的配慮がしっかりと為されるためのプランであって欲しい。

○情報交換

谷野[ボネール]

コロナ・インフルの発生はない。マスク着用の基準見直しとなったが、ボネールは店舗運営もしていることから、メンバーの方々にはマスク着用継続をお願いした。

来年度の行事をどのように開催していくかについて今後協議をしていく。

4月開所の生活介護事業所“ミモザ”は、地域に対する説明会を経ての開設となる。話題となっている災害時の地域との結びつきについて、どのような姿であるべきか今後検討・協議をしていく。研修会では、障がいのある住民も交えた防災訓練の話題があった。災害時の避難行動はプライベートでも考えさせられるものだが、そういった課題を、我が事業所にも当てはめて考えることも必要と感じた。

合理的配慮については、障がいのある方それぞれに“寄り添った配慮”を考えるうえで、最も大切なのは人権教育かと思う。社会教育・学校教育などあらゆる場面で学ぶべき。そういった活動も障連協として進めたいし、そのために精神障がいの方々をサポートする事業所が進んでこの会に参加してほしい。

木戸[大生信夫の里]

コロナ感染者はなし。利用者にはマスク着用の基準見直しについて説明はしたが、現状皆さん着用して下さっている。

3月に24時間テレビからリフト付き福祉車両の贈呈を受けた。送迎や外出の支援に有効に活用していきたい。就B事業所では、近隣の果樹園から農福連携作業の依頼あり。現在は桃の摘蕾作業に出向いている。選定は難しく、農家の方からしっかりと指導を受け取り組んでいる。

吉田[ポケット]

コロナ感染者はなし。マスク着用は継続している。販売は3/17(金)に「いきいき！ふくしマーケット」に参加した。昨日4年ぶりに花見山ウォーキングに出かけた。好天に恵まれ、早々に開花した花々は本当にきれいだった。皆さんも是非足を運んでほしい。

4/7～9 コラッセ1階アトリウムにて第29回エコクラフト展示会を開催する。ミニバスケット作りの講習会は行わないが、製作キットという形で販売する。また、作り溜めた製品の展示販売もする。

2月にぼけつで行った防災教室。危機管理室や障がい福祉課で来てくれたのに、今回の研修会に不参加だったのは、不思議に思えて仕方ない。次年度も色々と活動を頑張りたい。

佐野[なのはなの家]

コロナ感染はなし。3/5三春町において「耳の日記念第41回福島県ろうあ者福祉大」が2年ぶりに開催された。なのはなの家からは19人が参加。同じ障がいの方々との情報交換や交流は、非常に楽しく有意義だった。3/10には避難訓練を実施。地震想定の内容で、県立美術館までの徒歩避難。大きな問題はなかったものの、高齢の方は徒歩での避難が大変そうだった。

話は変わるが、映画『咲む』(えむ)の上映会を紹介させていただく。(上映会リーフレットは3/23障連協会員事業所にメールにて送付済み)いい映画なので皆さん是非ご鑑賞いただきたい。

國分[父の夢]

コロナ感染事例なく、季節変わりの体調変化程度。マスク着用については、厚労省・県・市の通知に沿い、着用推奨を文書にて周知した。

次年度事業計画は理事会にて承認。引き続き感染症対策を継続し、それに伴い行事内容も今年度に準じての実施となる。目玉事業のチャリティバザーやチャリティコンサートは見送る。利用者の活動も、班やグループといった小集団での実施を中心としつつ、感染状況を見ながら外出などの希望を取り入れたい。

個別避難計画作成依頼が福島市よりあり。全利用者を対象に、本人・家族の同意をもとに計画作成を進める事となる。4月から新規利用者1名利用開始。福島支援学校の卒業生。

佐藤[手をつなぐ親の会]

3/27理事会を開催した。総会は5/8に予定している。7月には会報の発行となる。

孝浩氏からGH運営の実際について話されたが、一般の賃貸物件においても築年数が経つと空きが目立つようになる。障がいの方のGHについても同様で、新しいことや作業所併設(近接)といったことなどが選択条件の大きなものとなっているのは事実だ。

7/9の市議選に向けて、会では選管との協議を進めている。選管では、山形県寒河江市の先進的取り組みを視察するなどし、準備を進めているようだ。朝日新聞では、投票所で障がい当人がパニックとなったことで、白紙のままの投票で処理した事例が違法であったとの報道あり。投票の場面における選管の対応手順と、投票する側のサポート要求の手続きについて、双方事前の擦り合わせが重要か。

会では市と共同でヘルプカード(市HPからダウンロード可)を作成した。これを提示することで担当者からのサポートを受けられる。活用いただきたい。ただし、本人の意思表示(確認)が難しい場合は、有効票としての取り扱いができないということ。

岡崎[おおぞらの夢]

コロナ感染事例ないものの、昨日、喉が腫れる、鼻水が出る、などの症状を7名の職員が訴え休養した場面があった。マスク着用に関しては当然父の夢と同様。

WBCではチーム力の大切さを実感。上記によりスタッフが欠員となる中、そこをフォローしあう体制・姿勢ないと現場は回らない。

現在ニコの夢の就労系の利用者は仁井田や荒井に出向いて桃の摘蕾や剪定枝片付けの作業に取り組んでいる。カラーの夢は工事進んでいる。事業所ごとの利用者、通勤の条件などを踏まえた移動の希望を募っている。

千葉[もちずりワーク]

前回話した嘱託医の件はどうか4月に間に合った。しかし、受諾の条件から引き続き委託先探し必要な状況。コロナ発生はなし。マスクは着用推奨。活動は安全を確保しながらのものとなる。今年度の内容に準じるなかで利用者の希望を反映させていきたい。一大行事の感謝祭は多数の人が集う行事であった。今後、以前と同じ形で行うのは難しいと考えている。収穫祭的な“収穫”に特化した内容で検討中。

これまで、別の法人と連携して商品化していた欲し芋だが、4月からは収穫した“紅はるか”を、干し芋に仕上げでの販売を準備中。スーパーいちい や いきいき!ふくしマーケット での販売を行う。

今月は総合防災訓練として業者(警備業者?)立ち合いのもと実施。避難訓練に加えダミー人形を使ったAEDの操作学習も実施し、心肺蘇生を学んだ。

孝浩[旅行を考える会]

自身の復調がまだであり、旅行の企画ももう少し先か。WBCの話題があったが、大谷選手の気迫あふれるプレイは、アナハイム訪問で会員とナマ観戦と行きたいものだが…。

渡部[大萱荘]

4/11にお花見を予定しているが開花が早すぎてどうなるか…。行事の内容に関しては、コロナ以前と同じ形(会食)にはできないとは思いますが、可能な限り以前の姿に近づけたいとは考えているところだ。

本日欠席の きらら の状況だが、利用者2名、職員4名の感染者が確認され、クラスターとなった。利用者の皆様、また関係する事業所の皆様にも大変なご迷惑をおかけしている。目下、事業再開を目指して取り組んでいる。

次回 第181回定例会;令和5年4月27日(木)10:00～ ZOOM 利用によるオンライン開催とする。